

戦史資料

高射砲第二十五聯隊(サイパン) 本部附陸軍中尉

安藤重三郎



一編成裝備

1. 高射砲中隊(各一式野戰高射砲六門編制)

照空ニヤ中隊(右六燈六機編成)

總員約千二百名

口 部隊長 新穂實徳中佐

副官 大嶽大尉

指揮班長 中村大尉

教育掛 松野大尉

本部中隊長 安藤中尉

兵器 岡田少尉

教育 川田少尉

情報 堀田少尉

通信 田瓜少尉

藥成 榎本少尉

主計 青木少尉

船留 船留少尉

軍医 野村大尉

兵衛 永屋見習士官

副官補佐 上杉中尉

副官補佐 磯部中尉

才一中隊長 藤島中尉

才二 井上中尉

才三 早川少尉

才四 遠藤中尉

才五 君島中尉

才六 浦山少尉

才六 中尾中尉

集成中隊長 竹尾少尉

備考 右中隊ニ附將校四五名宛アリタル元部憶判然セズ
留守業務担任部隊ハ姫路中部五工部隊ト知ス

123 646 089

二、部隊履歴概要

滿洲紅丹江ニ

昭和十七年六月一日高射砲ヲ二十五聯隊(通稱滿洲才二十六八六部隊)トシテ
創設サレ高射砲ニ大隊、照空ニ大隊計九ノ中隊ニシテ、才三第三ニ隸屬シ
牡丹江週辺ニ展開、全地防空ニ任ズ、一部ハ東寧、チャムス、鞍山等ヘ
派遣セラレシフトアリ。昭和十九年二月二十五日南方野進命令下リ、三月二日
釜山出帆、全十二日横須賀出帆、全二十一日サイパン到着(由一ノ大隊ハ光榮シテ
トランクニ大隊本部、モートロク、エンターヒー等上陸セリ)全時ニサイパン週辺ノ防空ニ
任ジ六月二十六日部隊長戦死、七月七日全員玉碎

三、隸屬関係

備部隊(軍司令部)ニ隸屬、五月中旬響部隊到着後、響部隊ノ指揮下
ニリ、六月サイパン戦ノ中期、再び軍直轄部隊トナリ、七月初、更に
歩兵才百三十五聯隊長ノ指揮下ニ入ラシメラレシモ、百三十五聯隊ノ
集結ナラズ、独立シテ野戦ノ玉碎

四、作戦準備関係

一、作戦計画ノ概要

四周ヨリ米穀等敵機ヲ爆弾射撃外ニ種々攻撃セントスコレガ
南都アリ、ス飛行場週辺ニ高射砲三ノ中隊、砲臺地ニ
高射砲三ノ中隊(由一ノ中隊ハ東成中隊ニシテ、若隊ヨリ火砲一門
及人員ヲ抽出編成セシモノ)ヲ配シ、照空一ノ中隊ハ南部、一ノ中
隊ハ北部ニ陣地占領セシメ、砲隊ニ協同セシム、部隊本部ハ兩者
ノ中間ニ三ノ高地ニ位置シ、之ヲ指揮ス

二、陣地ノ状況

上陸頭初、後續部隊ノ揚陸ヲ考慮シ、軍命令ヨリ港灣地区ニ主力
ヲ置キ、五月十日以前項ノ如ク陣地構築ヲセシム、陣地構築不備ナリ、
加フルニセシメ、爆薬等築城資材不足、タメ、晝夜兼行セシモ、作業意
如ク進行セズ、部隊全般ハ陣地構築五割程進捗ノ折、敵未勦滅セリ
タメニ戦斗開始後、三日間ニ砲爆轟ノタメ陣地、火器ヲ破壊ナレ、充
分火力ヲ發揮シ得ザリシ憾ミアリ
部隊本部ハ三ノ高地上ニ縦十七米、横三十米ノ洞窟ヲ工兵三ノ名使役
セシメ、石ヲ以テ約三週間カ、晝夜兼行九割程完成ノ時、敵未攻
シタリ、照空分隊ノ陣地ハ畧、完了シタリシモ、土嚢ノミノ陣地ニシテ
耐久力ナク、過早ニ破壊ス

5. 訓練状況

修正射一回ヲ了シ、他ハ海軍飛行隊ト協定シ晝夜猛訓練実施

五、四月十八日正午 B 二四八機来襲(ガラウソリト推定)高五五、海軍側ハ配置
ニツキアラズ射撃セザリシモ、部隊ハ好機ヲトラヘ射撃セルモ来襲スルニ至ラズ

五月二十九日十時半 B 二四八機来襲、射撃セルモ来襲スルニ至ラズ

六月十一日機動部隊来攻ガム、トラウク方面ヨリ北上、サイパン東側ヲ
北上シ反転シテ北方ヨリ来襲セルモノハ如シ、

最初二日間ト三日目午前中ハ空襲ノミニテ早朝ヨリ日没迄、二十機

乃至三十機編隊エテ四周ヨリ来襲、最初ハ港灣施設、飛行場、通信

隊、防空火器、爆薬銃庫ヲ行ヒ、常時上空ニアリ、最初三日間ハ

延機數ニシテ一日平均七百乃至八百機ヲ算シタリ、部隊ハ連續射

撃ヲ實施シヤ一日二十七機、ヤ二日二十四機、ヤ三日十七機ヲ撃墜セリ

ヤ三日目午後ハ、次ニ飛行機ナシト見タ敵ハ戦艦ヲ先頭ニ約百隻

ノ艦艇、近海ヲ包圍投錨シ、艦砲射撃ヲモ實施セリ、艦砲ハ晝夜ヲ

分タズ十五日ニハ、南部ヲヤランカニ一部上陸ヲ開始ス、

部隊ハ陣地構築不充分アリシ所へ燦烈ナル砲撃セルモノハ、最初

三日間ニ飛機場周圍ヲリシ三ヶ中隊ハ甚大ナ打撃ヲ被リタリシ

事數甚多、新島島嶼奪取セリ、ヤ三、中隊ハ十六日既ニ敵戦車ニ

包圍サレ、戦車六ヲ捕獲セリ、十七日中隊長以下十捕獲ヲ以テ全員

突入至碎セリ、附近ニアリシヤ六中隊(照空)ノ主力モ之ト行御ヲ出ニ

ス、ヤ一、中隊ハヤ一日既ニ半分ノ火器人員ニ損害ヲ被リタリシモ、

奮斗、十七日以降連絡不能、通信ノ復修ナラズ、傳令帰ラズ、ヤ二、中隊ハ

十六日敵ニ包圍サレ、新火砲ヲ破壊シ中隊長ハ殊存部隊五〇ヲリ

率シテタッポル山麓ニ轉進、部隊本部(二百三〇高地)ハ敵上陸

地点ニ近ク、前面ノ地上部隊ハ砲撃ニ壊滅セリ、十六日既ニ敵

山林ニ迫リ、餘儀十ヶ山上ニ轉進、十七日ハ敵戦車ノ包圍ヲ受

タリシモ、重機ニド小銃ヲ以テ之ニ抵抗、敵十八日既ニ我ヲ捕獲シ

被レリ、本部ハ十八日午後、余ニヨリタッポル山北側ニ轉進、

コ、同港灣地又ニリシヤ四、中隊ハ海軍機雷庫ノ爆撃ヲ受リ陣地全船被

害ヲ被リタリシモ、勇戦、集隊中隊又奮戦ス、二十日以後西中隊トモ半数ノ

火砲破壊サレ、和四、中隊ハ城方ドンニ陣地を被、七月二日近敵機ヲ撃

墜セルモ、ソレ以後防空戦不能、部隊長新種中隊ハ陣地を被、作戦

指導中敵艦砲ヲタメ断死、集隊中隊ハ防空戦ヲ中止シ專ラ

1885

対馬車輪ニ備ヘアリシモ、遂ニ火砲破壊サレ、中隊長ハ強兵ニ率イ
テ、ドンニニ射進、カウシテ南陸ハ全部隊命ニ依リ地上部隊
ニ協共シ七月七日 全員玉碎セルモノト思惟ス、

砲空隊ハ本末ノ使命示揮ノ機軸ナリ、地上部隊ニ呼應ス、
部隊本部ハ聯隊長代理中村大尉之ヲ指揮シテ、命ニ依リ
タフボノ北側ニテ専ラ対馬車輪ニ任ゼアリシモ、六月下旬
ドンニニ射進、安否百弄五聯隊長ノ指揮下ニテ、七月
二日玉碎セルモノト思惟ス、

六 陸奥衛生

部隊ノ任ム上、サイパン島各地ニ陣地占領シアリシモ、高地ニアリ
シ部隊ハ水不足方ニシテ、糧食初ヨリ乾パン食ナリ、

シ他事項

- ① 小島嶼防禦ニ際シテハ、地域陝隘ナルヲ、適當ナル間隔ヲトリ
得ズ、従テ砲空隊ハ砲隊ニ対シ、有効ナル協同スル能ハズ、
- ② サイパン島中島其外ハ、陣地ノ不備ハ勿論ナルモ、海軍側ノ

聯合艦隊ハ作戦行動ヲ開始スモノ、如シハ、部隊ノ指揮

局限ニ懸ムトモ、二層階スルニ云々、ノ指示ニヨリ

聯合艦隊ニ依頼スル精神状態アリシト、現在地死守ヲ

行ハズ、過早ニ歸線整理ナリテ後方ニ射進屬ス、且ツ

陣地ナリシニ、砲火ニ暴カレ損害多カリシ等ハ、素人

判断ナカク、重要原資ノ一ツト思惟サレ

以

浦賀上陸地支局

昭和 年 月 日

文実調査参考資料 報告

摘要

所在地	サイパン	職官	陸軍中尉	終戦時ノモ
所屬部隊	備ヲ二六八六部隊	氏名	安藤 芳三郎	ノ記ス

支那事変以降ニ於ケル自	昭和十六年七月、宜昌直下ニ在リ、編入、東寧地区警備ニ任ズ。	職、変更及至ナル参加戦斗名ヲ記ス
-------------	-------------------------------	------------------

所屬部隊ノ編成年月日及編制整備概要	昭和十七年六月、高射砲ヲ二十五聯隊トシテ牡丹江ニ編成サレ、同地区警備ニ任ズ。三個大隊ニシテ、内二個大隊ハ高射砲八八式野戦高射砲六門編成、一々大隊ハ照準ニシテ六燈六機編成。	最後ノ所屬部隊ヲ主ニシ、尚ソノ以テノ所屬部隊ノ合テモ概記ス
-------------------	---	-------------------------------

所屬部隊ノ戦經過ノ概要	昭和十九年二月末、南方ニ轉進、三月二日釜山出港、全十二日横須賀ニ集結、三月二十一日サイパン上陸、主トシテ港灣地区ノ防衛ヲ任ズ。四月十八日、五月二十九日、西ノ空襲ニ對シテ、六月十一日機動部隊ノ来攻ニ對シテ、六月二十六日部隊長駐北、七月七日部隊玉碎、結果東陸約百機不明ナルモ、殊存最寄、部隊ト協力敵要滅ニ邁進ヤルモノト思惟ス。	歸還輸送ノ状況ヲモ併記ス
-------------	---	--------------

終戦ノ又ハ主力ノ戦斗終了ノ状況	不明ナルモ、殊存最寄、部隊ト協力敵要滅ニ邁進ヤルモノト思惟ス。	歸還輸送ノ状況ヲモ併記ス
-----------------	---------------------------------	--------------

歸郷ノ又ハ連終ノ先	本籍地 愛知縣	
-----------	------------	--

其他ノ参考事項		
---------	--	--

1992